



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3209 号 2016.8.24 発行

障害者を「世の光に」 創設70年の近江学園 相模原事件から1カ月、理念の重さ改めてかみしめる



産経新聞 2016年8月24日
木材でベンチをつくる近江学園の生徒=滋賀県湖南市
「障害者福祉の父」として知られる故・糸賀一雄氏が、知的障害者らが入所する公的福祉施設「近江学園」（滋賀県湖南市）を創設してから、今年で70年。「この子らを世の光に」という糸賀氏の理念には、「どの子供たちも生まれながらに輝く素材を持っている」との意味が込められている。相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入居者19人が刺殺された事件から26日で1カ月。同学園の職員らは改めてこの言葉の重みをかみしめている。



「そーっと、そーっと」「手を切らないよう気をつけて」。今月上旬、同学園木工科の授業。職員らのアドバイスに従って生徒たちは真剣な表情でのこぎりを動かす。作業が一段落すると笑みがこぼれた。

同学園には約70人の生徒が入所している。中学校を卒業すると、木工科や窯業科などに所属し、就業に向けて技能を磨いている。木工科では木工製品、窯業科では粘土を使って茶碗（ちゃわん）や造形作品を作る。

同学園は終戦から間もない昭和21年、知的障害児らの教育や医療が不十分なことを憂いた糸賀氏が、大津市に創設。その後、湖南市に移転し、こうした作業教育を一貫して実施してきた。通常、就業訓練は特別支援学校で行われ、福祉施設では珍しいという。

根底には「この子らを世の光に」という糸賀氏の信条がある。「この子ら『に』世の光を」とあわれみを求めるのではなく、子供たちが持っている素材を伸ばそうという考えだ。

「この子らはどんなに重い障害をもっている、だれととりかえることもできない個人的な自己実現をしているものなのである」「この子たちも立派な生産者であるということ、認めあえる社会をつくろうということである」。糸賀氏の著書「福祉の思想」には、そう記されている。

相模原の事件で逮捕された植松聖（さとし）容疑者（26）は「障害者は生きていてもしょうがない」と口にしていたという。同学園の植田重一郎園長は「僕たち職員は糸賀さんの思想を体現するための矜持（きょうじ）を持たなければならない。それが容疑者の行動を否定することにつながる」と力を込めた。

■糸賀一雄（いとが・かずお） 「近江学園」の創設者で初代園長。大正3年3月、鳥取市生まれ。京都帝国大学を卒業後、滋賀県庁に入庁。近江学園創設後も西日本で最初の重症心身障害児施設「びわこ学園」を滋賀県内に設立するなど多くの取り組みに携わり、「障害者福祉の父」と呼ばれた。

認可保育所の計画中止 住民ら反対 芦屋市（兵庫県） 読売テレビ 2016年8月23日



兵庫県芦屋市に作られる予定だった認可保育所が、住民らの反対で中止になったことがわかった。高級住宅が多く連なる芦屋市。その南部で、ある問題が起きている。阪神高速のすぐ脇にある175平方メートルの空き地。ここに、大阪市の社会福祉法人が定員56人の認可保育所を開く予定で、仮契約まで済ませていた。待機児童が175人いる芦屋市にとって、大きな受け入れ先だったが、

一転中止になってしまったという。もともと、この社会福祉法人は芦屋市内の別の地域で定員15人のいわゆる“保育ママ事業”を運営。昨年度末に事業が終了したため、より多く受け入れられる認可保育所への移行を目指し、移転先を探していた。しかし、最初に見つけた近隣の候補地では、仮契約までしたものの、住民の反対にあって断念。さらに今回の候補地でも、「騒音で地価が下がったらどうするのか」「送り迎えの違法駐車や事故が心配」などの反対の声があがった。社会福祉法人側は、3度の住民説明会を開き、建物を二重窓にするなどの対策を提案したが、受け入れられず、7月末に中止を決めた。社会福祉法人の担当者は「住民側の要望には出来る限り応えてきたつもり。これほど反対されるとは思わなかった」と話す。中止の通知を受けた芦屋市こども・健康部も「このような結果になって残念」「(保育所があると)子どもが健全に育っていくんだというところを、地域として認めていただき、そこで受け入れていただく、そういう意識を醸成していく必要があるのでは」などと語った。保育所の設置を巡っては、騒音などを懸念した住民の反対により、中止に追い込まれる事例が千葉県市川市をはじめ、全国で相次いでいる。待機児童の解消が急がれる中、地域の中で子どもを育てる環境をどう作っていくか。模索が続いている。

News Up 新学期 子どもの自殺防ぐ



NHK ニュース 2016年8月23日

8月も終わりに近づき、学校が始まるのを楽しみにしている子どももいるかと思いますが、しかし、その一方で、学校に行きたくない、行くことができないという子どももいるかもしれません。夏休みの終盤、そして新学期が始まるこの時期は、実は、子どもの自殺のリスクが最も高まる時期と言われています。どうすれば自殺を防げるのか。新学期を前に子どもたちの自殺予防の取り組みを取材しました。

新学期への不安 高まる自殺のリスク

去年のこの時期。鎌倉市図書館の司書の女性がツイッターに投稿したメッセージが、大きな反響を呼びました。

「もうすぐ2学期。学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしやい。9月から学校へ行くくらいなら死んじゃおうと思ったら、逃げ場所に図書館も思い出してね」。

このメッセージが発信された背景には、休み明けに子どもたちの自殺が増えるというデータがあります。

平成25年までの42年間に自殺した18歳以下の子どもは1万8000人余り。亡くなった日別に見ると、最も多いのが夏休み明けの9月1日で131人でした。

9月2日も94人、8月31日も92人と、それぞれ4番目と5番目に多くなっています。

この理由について、データを公表した内閣府は「長期の休み明けで生活環境などが大きく変わる契機となり、大きなプレッシャーや精神的な動揺が生じているからではないか」と分析しています。

児童館を“居場所”に

子どもの自殺を防ぎたい。ことしもさまざまな取り組みが行われています。

「児童館にいてみよう

居るところがなかったら、児童館にいてみよう。

やるのがなかったら、児童館にいてみよう。

話せる人がいなかったら、児童館にいてみよう。

わかってくれる人がいなかったら、児童館にいてみよう。

がまんできないほどしんどくなる前に、児童館にいてみよう」

全国の児童館で作る児童健全育成推進財団が作った専用の標語です。

子どもたちの自殺を防ぐための“居場所”を提供したいと、8月中旬から各地にあるおよそ4600の児童館やツイッターなどを通じて、児童館の利用を呼びかけています。

児童館には、子どもたちは本を読んだりスポーツをするなどして自由に過ごすことができるうえ、保育士や社会福祉士の資格を持つ専門の職員がいて悩みを抱えている子どもや親からの相談にのることもできます。

保護者からは「居場所が見つかって救われた」などという反響も寄せられていると言うことです。



不登校の経験者がメッセージ

不登校の経験者が、インターネットの動画を通じて、学校に行きたくないという子どもたちにメッセージを送る動きもあります。

東京と千葉で3つのフリースクールを運営している東京シューレ。

今月19日に動画を公開しました。

動画は「学校に行くことは義務じゃない」という言葉から始まります。

「あなたを大切にしようとしなくていい人とは距離を置いてもいい」

「あなたと同じ考えを持つ人は、目には見えないようでもたくさんいるんだ」

「あなたは守られるべき存在なんだ」

フリースクールに通う5人が、それぞれの経験から、我慢をせず助けを求めてもいいんだと、訴えます。

そのうちの1人、角田匠さん（17）は、「私も中学1年のときに人間関係に悩み学校に行きたくなくて自殺が頭をよぎったことがある。いじめを受けている子どもなどは、学校に行くことはとても不安だし、自殺を考えてしまう人もいると思う。学校がすべてではなく、選択肢は1つではないことを知ってもらいたい」と話しています。

東京シューレでは、このほかにも毎週木曜日にフリースクールのスタッフなどが電話で相談に応じたり、子どもの緊急避難場所として、3つのフリースクールのスペースを開放する取り組みを行うことにしています。

多様な価値観を認める社会を

子どもの貧困や自殺の問題に取り組むNPOなどの連携も始まっています。

これまで全国各地で活動してきた6つの団体が「若者自殺対策ネットワーク」を設立し、9月11日には初めてのフォーラムを東京で開催します。

事務局のライフリンクによりますと、フォーラムでは各団体の活動を通じて見えてきた、

自殺の実態や課題を話し合い、それぞれが連携しながら対策を検討していくということです。

子どもたちを守るためには、何が必要なのか。

子どもの電話相談の活動をしているチャイルドラインは、“居場所”づくりのほかに、周囲の人の理解や心遣いが大切だと指摘しています。

「子どもが本当はどうしたいのかを周りの人がじっくりと聴いてあげることが最も大切だ。そうすれば気持ちを和らげることができるし解決につながることもある。本当に目指すべきは自殺を考えなくても済むような、多様な価値観を認める社会をわれわれみんなが作っていくことだと思う」

鹿島療育園30周年、地域と歩む施設づくり誓う

佐賀新聞 2016年08月24日

馬場謙吾理事長(左)によるボランティアらの表彰を行った30周年記念式典＝鹿島市の割烹清川



鹿島市山浦の障害者支援施設「鹿島療育園」の創立30周年記念式典が20日、鹿島市の割烹清川で開かれた。関係者ら約120人が出席し、これからも障害者が地域と関わりながら、安心して暮らせる施設づくりを進めることを誓った。

社会福祉法人花木庭(はなこば)会が運営する鹿島療育園は1986年8月に開園し、現在は52人の障害者が利用している。地域との関わりを大切にし、囲碁将棋や日本舞踊などのさまざまな

ボランティアや職場体験の若者らが訪れている。

式典では、同会の馬場謙吾理事長が30年の歩みを振り返り、「利用者の人生に寄り添い、家族や地域の皆さんと連携してより良い支援に取り組んでいきたい」とあいさつした。寄付者やボランティア、永年勤続の職員の表彰もあり、壇上で馬場理事長から記念品が手渡された。

鹿島市出身の今村雅弘復興相も駆け付け、記念誌に掲載されている利用者紹介に触れ、「利用者の表情が明るく、家族のような雰囲気。やはり心と心」と祝辞を寄せた。

21歳男を殺人未遂容疑で逮捕 千葉の女性刺傷事件

朝日新聞 2016年8月24日



大学生の女性が刺された現場付近を調べる捜査員＝23日夜、千葉県船橋市前原西7丁目、安西裕莉子撮影

千葉県船橋市の路上で大学生の女性(19)が自転車に乗った

男に刃物で刺された事件で、県警は24日、埼玉県ふじみ野市花ノ木1丁目、自称無職の大野駿容疑者(21)を殺人未遂容疑で逮捕し、発表した。「やっていない」と容疑を否認しているという。

事件の約1時間半前には千葉市でも中学3年の少女(1



4) が自転車の男に刺されて重傷を負う事件があり、県警は大野容疑者が関与したとみている。

発表によると、大野容疑者は23日午後6時35分ごろ、船橋市前原西7丁目の路上で、1人で歩いていた女性に後ろから自転車で近づき、殺意を持ってナイフで腰の近くを刺して3週間のけがを負わせた疑いがある。大野容疑者は女性にナイフを刺したまま自転車で逃走。傷の深さは約6センチに達しており、県警は殺意があったと判断した。

捜査関係者によると、大野容疑者が乗っていたとみられる自転車は現場近くで見つかった。事件直前に盗んだ疑いがあるという。

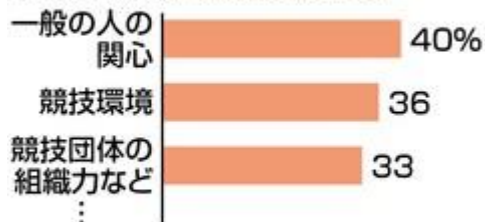
一方、この事件の約1時間半前には、約12キロ離れた千葉市中央区弁天2丁目の路上で、同級生と歩いていた中学3年の少女が自転車の男に脇腹を刺され約1カ月の重傷を負った。男は後ろから少女に近づき、追い抜きざまに刺したという。

大野容疑者は逮捕時に青色のシャツを着ていた。千葉市の事件でも、犯人が青色のシャツを着ていたという目撃情報が複数あった。捜査関係者によると、複数の防犯カメラの映像で、大野容疑者とみられる人物が千葉市での事件が起きた直後、JR線で千葉市から船橋市に移動したことが確認されたという。

大野容疑者の母親は24日、朝日新聞などの取材に、大野容疑者が重度の知的障害者で障害者手帳を所持していると説明。「人懐っこい子。何と言ってよいかわからない」と話した。

パラリンピック練習施設なお壁 代表でも2割が利用拒否経験

パラリンピックと五輪の選手は何が違う？



※複数回答可でパラリンピック選手111人が回答

東京新聞 2016年8月24日

開幕が迫ったリオデジャネイロ・パラリンピックと、二〇一四年ソチ冬季大会の代表選手を対象とした調査で、五人に一人がスポーツ施設の利用を断られたり、利用に条件をつけられたりした経験があったことが分かった。パラリンピック出場経験者らでつくる日本パラリンピアンズ協会が調査し、二十三日に結果を発表した。

リオ大会は現地時間の九月七日に開幕するが、代表選手でも今なお練習環境に壁がある現状が浮かんた。

調査は百四十七人を対象とし、約75%の百十一人が回答した。うち21%が利用を断られるなどの経験があり、車いすバスケットボールや車いすラグビーの選手が「体育館の床に傷がつく」と敬遠されていた。ほかに、テニスコートや陸上のトラックでも同様の例があった。視覚障害や知的障害の選手が「危ない」と断られたケースもあった。

協会の大日方（おびなた）邦子副会長は「率直に言って多いなという気持ちだ。トップアスリートがこの状態なら、初めて競技をやる人にとってはどれだけハードルが高いだろう」と案じた。

競技に対する年間の自己負担額は平均約百四十七万円で、一二年ロンドン大会前の調査（約百四十四万円）とほぼ同額。海外遠征費などがかかり、選手の負担は高止まりしている。

リオの出場選手は約百三十一万円で、ソチは約二百四十九万円。道具や器具の購入費がかかりがちな冬季の方が、高いのが特徴だ。全体では二百万円以上の選手が二割以上いる一方、百万円未満が約四割を占め、二極化の傾向があるという。

◆車いすバスケ愛好者の多くが経験

調査は二〇〇八年の北京大会時と、一二年のロンドン大会時にも行ったが、施設の利用を断られた経験を聞いたのは初めて。調査を行った桐蔭横浜大の田中暢子（のぶこ）准教

授（スポーツ政策学）は「選手から断られるという声も出ていたので、きちんと調査しようと考えた」と話す。

都内の車いすバスケットボールチームに所属する田中久美さん（61）＝国分寺市＝は五年ほど前、自治体の体育館を借りようとして「床に傷がつくのでは」と断られた。つきにくいことを粘り強く説明し、何とか借りることができた。競技を始めて約三十年。この問題は「昔からあった。パラリンピック選手に限らず、多くの人が経験している」と言う。

本紙は三月、車いすバスケチームが都内で体育館を借りにくい状況を報じた。ドイツや米国では「床に傷」を理由に貸し出さないケースは聞かないという識者の話や、実際に貸し出している体育館では補修に特別な出費がないこと、四月施行の障害者差別解消法に抵触する可能性があることなどを指摘した。だが、田中さんは六月にも、障害者スポーツの講習会で体育館の職員に「実際には難しいよ」と言われ、理解は進んでいないと痛感したという。

車いすバスケの元パラリンピック選手で、チームのコーチを務める多智（たち）利枝さん（69）＝東大和市＝は、小中学生向けのパラリンピック体験教室で講師を務める。「一気に理解が進む話ではない。理解の種をまくような気持ちで引き受けている」と話した。（木原育子、森川清志）

東京五輪「文化プログラム」 静岡県内開催へモデル事業6件選定

選定されたモデル事業

提案者	内容
NPO 法人熱海ふれあい作業所(熱海市)	障害者によるラジオ番組の制作と放送
NPO 法人伊豆学研究会(伊豆の国市)	なまこ壁の住宅を活用した公募展、食や自然の体験プログラムなど
企業組合くれば(島田市)	芸術家や学生による山村文化の発信、高齢者によるおもてなし集団など
シズオカオーケストラ(静岡市)	外国人を対象にした寺院での宿泊、和文化体験プログラムなど
浜松市根洗学園(浜松市)	発達が気になる子どもとアーティストによる療育プログラムの実施など
富士の山ビエンナーレ実行委員会(富士市)	富士宮、富士、静岡の3市を会場にした市民有志による現代アートの芸術祭

静岡新聞 2016年8月23日
静岡県は2020年東京五輪・パラリンピック「文化プログラム」の県内開催に向けた準備を進めている。リオデジャネイロ五輪終了後にスタートさせるモデル事業を募集し、このほど6件を選定。31日まで2次募集を行い、地域の文化資源と活用法の掘り起こしを続ける。選定された事業は、外国人を対象にした和文化体験プログラム（シズオカオーケストラ、静岡市）▽障害者によるラジオ番組の制作（NPO法人熱海ふれあい作業所、熱海市）▽なまこ壁の住宅を利用した芸術展（NPO法人伊豆学研究会、伊豆の国市）など。文化芸術の要素があることを前提に、地域振興や社会福祉につながる多様性のある取り組みを選んだ。

選定された団体は今月中に県と協定を結ぶ予定。専門知識を持ったコーディネーターの支援を受けながら、来年3月上旬まで事業を展開していく。あらためて公募する本プログラムの実施に向け、課題の洗い出しや人材の育成を行う。文化政策課の担当者は「一極集中ではなく、県内各地の多様な資源を活用したい。五輪終了後も持続させて、文化振興につながる取り組みになれば」と話した。

文化プログラムは五輪憲章で実施が義務付けられ、芸術、音楽、舞台などの行事を五輪前から期間中にかけて展開する。前回のロンドン大会では英国内全土で約17万7千件のイベントが実施された。

2次募集に関する問い合わせは県文化政策課＜電054（221）2252＞へ。

希少難病患者の中岡亜希さんダイビングライセンスを取得 佐藤慈子

自宅の部屋でくつろぐ中岡亜希さん。動く指先でメールを書く＝京都府宇治市、佐藤慈子撮影



首と指先だけしか動かせない進行性の希少難病の女性が、スキュー



バダイビングのライセンスを取った。京都府宇治市の中岡亜希さん（39）。「障害者が一歩を踏み出す勇気を持ち、それをサポートしてくれる人と出会えば、夢はかなう」。自身の体験を発信し、障害者の挑戦を後押ししたいと思っている。（佐藤慈子）

静岡県伊豆半島の伊東市。この7月、中岡さんが最後の講習を終え、ひょっこりと水面に顔を出した。「すごく楽しかった。私、本当に潜れたんですね」。3日間の講習でダイバーになった中岡さんを、スタッフが拍手で祝福した。

中岡さんは航空会社の客室乗務員だった25歳の時、全身の筋肉が少しずつ衰える進行性の希少難病「遠位型ミオパチー」と診断され、3年後に車いす生活になった。今は話したり食べたりはできるが、首と指先をわずかに動かせるだけで、大半を自宅のベッドの上で過ごしている。

病気になった直後は、日常生活が不自由になり、落ち込んだ。知り合いの子どもたちからキャンプに誘われても、「迷惑をかける」と前向きになれなかった。しかし「亜希ちゃんには僕たちと一緒に遊びたくないの」と問われ、はっとした。「本当は遊びたい。できないと決めつけずに、挑戦して人生を楽しみたい」という思いがあふれ出た。

頭に浮かんだのはスキューバダイビング。空の世界に魅了されて客室乗務員になったように、未知の海中にずっと憧れていた。インターネットで、障害者ダイビングの認定団体が伊東市で講習をしていることを知り、連絡。知人の運転で現地に向かった。

講習をしたのは、認定団体「HSA JAPAN」（東京都渋谷区）のインストラクター、太田樹男（みきお）さん（50）。これまでに約670人の障害者にライセンスを発行してきた。

HSAは、認定基準を障害者の身体能力の違いによって分けている。できる範囲で技術を習得してもらい、それ以外はサポートして補う。そのため、ライセンスを出す基準は、個人によって千差万別だ。

広域災害に備え訓練 県、海陽で9月1日実施

徳島新聞 2016年8月23日

徳島県は「防災の日」の9月1日、海陽町のまぜのおかー帯を主会場に総合防災訓練を実施する。東日本大震災や4月の熊本地震を踏まえ、自助、共助、公助の連携や広域災害への備えをテーマに行う。飯泉嘉門知事が22日の定例会見で発表した。訓練は徳島、美馬両市にも副会場を設け、県内自治体や自衛隊、警察、災害協定の締結団体など142機関から総勢約千人が参加する。雨で地盤が緩んだ直後に南海トラフを震源とするマグニチュード9の地震が起き、揺れや津波で家屋倒壊や道路網寸断などが相次いだとの想定で行う。熊本地震では、高齢者や障害者らを支援する福祉避難所に一般の被災者が押し寄せ、本来の機能が十分に果たせなかった。こうした教訓を踏まえ、福祉避難所の運営訓練では、避難者の体調を確認した上で、健康な人には一般の避難所へ移動してもらうよう呼び掛ける。公助だけに頼らない住民参加型の福祉避難所の開設にも取り組む。

東日本大震災で課題となった燃料不足への対応として、自衛隊車両による軽油、灯油の輸送や自衛隊ヘリコプターへの燃料補給訓練を実施。自衛隊の衛生隊や国際医療援助団体「AMDA（アムダ）」（岡山市）による災害医療訓練もする。知事は「あらゆる大規模災害での死者ゼロの実現に向けてしっかり取り組みたい」と述べた。

ホルモンを鼻スプレーで自閉症軽減 福井大チーム検証、結果に男女差



福井新聞 2016年8月24日
自閉スペクトラム症の患者にオキシトシンを投与した臨床試験の結果を説明する小坂教授（右）＝福井大の松岡キャンパス

発達障害の一つ「自閉スペクトラム症」の症状を軽減すると注目されるホルモン「オキシトシン」を青年期の男性患者に鼻からスプレーで継続して投与すると、投与量が多いほど効果が大きいとする臨床試験の結果を、福井大子どものこころの発達研究センターの小坂浩隆教授（42）らのチームが23日までにまとめた。

患者の遺伝子の違いが効果に影響することも判明し、これまで十分に分かっていなかった投与量と効果の関係や個人差の解明につながり、治療法の確立に向けた重要な成果という。同日付の米科学誌電子版に論文が掲載された。

同大主体の研究で、金沢大、東京大が参加した。自閉スペクトラム症と診断された知的障害のない15～39歳の男性47人、女性13人の計60人に対して12週間行った。オキシトシンの投与量が多いグループと少ないグループ、偽薬を使うグループに分け、投与量や遺伝子の型を確認して効果を比較、検証した。

この結果、男性患者では投与量が多いほど「視線が合う」「共感が強まる」「会話量が増える」などの改善効果が大きく現れた。投与量が比較的少ない場合は、オキシトシンと結びつくタンパク質（受容体）の型を決める遺伝子の違いで効果の程度が異なった。

女性患者は、偽薬でも症状が軽減した例が複数あり、オキシトシンの効果がはっきりしなかったという。男女とも、試験期間やその後の投与を通じて、重い副作用はなかった。

今後さまざまな投与量で効果の違いを調べ、症状軽減に最適な量を見つけることが期待される。将来的には遺伝子の違いによって効果を事前に予測し、個々の患者に合った治療が選べる可能性もある。

鼻からスプレーでオキシトシンを投与する治療は、臨床試験で有効性や安全性を検証している段階。福井大は現在、東京大、金沢大、名古屋大と共同で計114人の患者を対象に大規模試験を進めている。小坂教授は「年単位の長期継続投与後の安全性確認など課題は残されているが、オキシトシンは自閉スペクトラム症の治療薬として期待できる」と話している。

■自閉スペクトラム症 従来は「自閉症」「アスペルガー障害」「特定不能の広汎（はん）性発達障害」に分けられていたものが統合された。「視線が合いづらい」「人の表情や気持ちの理解が苦手」など社会的なコミュニケーションの障害がみられるほか、「興味範囲が狭い」「意味のない習慣に執着する」などの特徴もみられる。

■オキシトシン 脳で分泌されるホルモンの一つ。信頼や愛情の形成、表情の認知などに関わることが分かってきて、人のコミュニケーションに重要な役割があると注目されている。日本では陣痛誘発・分娩（ぶんべん）促進の注射剤だけ保険適用が承認されている。点鼻スプレーは自閉スペクトラム症の治療薬としてどの国でも認められていない。

